

山林事業

江間忠グループは木材の輸入事業を中心に成長してきました。

しかし、新興国における木材需要の増大で世界の木材需給は大きく変化し、我が国の木材輸入は減少傾向となっています。一方で、国内で戦後造林されたスギ、ヒノキの人工林は本格的な利用期を迎えており、

国産材利用の機運は高まっていますが、材価低迷や施業効率の遅れなどから、国内林業は十分な国際競争力を備えるには至っておらず、山林の手入れも遅れがちです。

こうした山林事情を見て、江間忠グループは2003年の創業80周年を契機に、山林の保全と国産材の有効利用を目指し、本格的な山林事業に参入しました。これまでに全国で約5,200haの山林を取得しています。

自社山林を適切に管理・施業することで、山林の持つ国土保全や水源涵養等、多面的且つ公益的な機能を維持・発展させると共に、SDG s (持続可能な開発目標)の観点に立ち、伐期を迎えた山林は効率的に皆伐・再造林を行い、用材を活用することに加え、燃料チップの製造やバイオマス発電等も視野に入れた林産資源の高度利用に挑戦し、活力ある林業を総合的に展開して参ります。

江間忠の社有林

静岡県、愛知県、徳島県、和歌山県、宮崎県にスギ・ヒノキの人工林を中心とした総面積約5,200ヘクタールの山林を所有しています。(2020年6月現在)

静岡県浜松市天竜区の山林は世界的な森林認証機関であるFSC®(Forest Stewardship Council®、森林管理協議会)から森林管理認証を取得しております。

